徳島新聞　　令和8年1月3日（土）

健　康

徳大病院
元気を支える
医療

# 安全性と質向上が使命

## 事故防止へ改善重ねる

「世界患者安全の日」の昨年９月17日に、西良浩一病院長（手前左から２人目）と一緒にプラカードを掲げて啓発する安全管理部などの病院スタッフ＝徳大病院

池本哲也
安全管理部長・教授

安全管理部は聞き慣れない部署かもしれません。内科や外科のように患者さんを直接治療することはないですが、「患者さんの安全を守り、病院全体の医療の質を高めること」を大きな使命としています。徳大病院は全国に88カ所ある特定機能病院の一つで、こうした病院は医療の安全を専門に担当する医師を配置しています。

私は元々、消化器・移植外科（肝胆膵外科）が専門で、手術や検査、救急を含む外来・入院治療などに約30年間携わってきました。現在は長年の経験を生かし、医療現場で起こりうるリスクを予防し、より安全で質の高い医療を提供できるような仕組みづくりに取り組んでいます。

医療は安全でなければなりませんが、人が関わっている以上、「エラー」が起こる可能性があります。安全管理部では、各部署から報告される問題やエラーを医師や歯科医師、看護師、薬剤師、臨床工学技士、放射線技師、事務など多くの職種のスタッフが話し合い、小さなエラーが大きな医療事故につながらないようにする仕組みを構築し、日々改善させています。

万が一、医療事故が起きてしまった場合は、法律に基づいて専門の機関に報告し、第三者の視点で公平に調査します。その上で患者さんやご家族へ丁寧に対応します。

さらに事故が発生した原因を特定し、医療従事者の教育や意識改革などを通じて、なぜエラーが防げなかったのか、防ぐシステムが適切だったのか検証します。その結果を基に、病院長が中心となり教育や仕組みの改善を病院全体で進めていきます。

特定機能病院は専門的で高度な医療を担い、手術室など外から見えにくい場所で治療することも多いです。そのため「医療の透明性」、「患者さんへの十分な説明と同意」、「医療従事者自身が専門職として誠実に行動すること」が大切です。医療従事者は患者さんにとって一番良い医療を提供し、病気やけがが良くなるという最大の結果が得られるように、患者さんとご家族、関係者に寄り添う姿勢が常に求められます。

安全管理部は、徳大病院で治療を受ける全ての患者さんの元気を支え、医療の質と安全を守るために活動しています。お気づきのことがあればお声がけください。

徳島新聞令和８年１月３日掲載
コピー、転載禁止